

Ⅱ 研究所が主体的に関わったその他の成果

① 長野県版レッドデータブック～絶滅のおそれのある野生生物～（2002年～2005年）（動物編・維管束植物編・非維管束植物編・植物群落編）

レッドデータブックは、長野県における絶滅のおそれのある野生生物の現状を明らかにしたものです。多くの協力者の力を得て、それらの保護対策の基礎となる資料としてまとめられました。



② 長野県版レッドリスト（2014年、2015年）（動物編・植物編）

レッドデータブック出版後約10年が経過し、県の自然を取り巻く環境も変化していることから生物種のおかれている状況について再検討を行い、最新版のレッドリストをまとめました。



③ 風力発電アボイドマップの公表（2006年）

アボイドマップは、中・大型風力発電施設の立地について、「慎重に検討すべき地域等」を表した図（影響想定地域マップ）です。この資料により、環境や景観の保全、生物多様性の保全のために、建設にあたってあらかじめ配慮ができるようになりました。

④ 変わりゆく信州の自然（2008年）普及書の出版

里山保全に関する研究プロジェクトの成果をもとに、研究スタッフが一般向けに62話の解説記事をわかりやすく書き下ろし、普及書として出版しました。



⑤ 長野県デジタル地質図2015（2015年）の発刊（長野県地質図活用普及事業研究会編著）

約半世紀ぶりに長野県の地質図が刷新されました。当初県の主要事業として2006年に着手されましたが、以後資金確保等の様々な困難を伴いながらも県内の多くの研究者の献身的協力を得て、10年をかけてまとめられました。

